

関西経済3団体と企業等で「大阪都心のまちづくり活動勉強会」を発足**2025年の大阪・関西万博とその後に向けて、大阪都心のまちづくり活性化を目指し
官と民の魅力を活かした大阪ならではの官民共創スタイルの創出へ！**

- この度、2025年大阪・関西万博、2031年のなにわ筋線開通（予定）などの大きな発展的転換期に向けて、大阪の国際競争力の強化を目指した都心としてのあり方を探るため**大阪都心のまちづくりに関わる民間企業有志や関西経済界3団体**が集まり「大阪都心のまちづくり活動勉強会」（座長：橋爪紳也・大阪府立大学特別教授）を発足しました。
- 本勉強会では官と民の魅力を活かした「官民共創スタイル」の実現を目指し、新たなスキームや公益を担う民のあり方など、活気あふれる大阪ならではのまちづくり活動と、その活動による大阪全体の活性化を検討しています。
- 8月27日に政府で万博関連のインフラ整備計画が決定されましたが、2025年までには、なんばの駅前広場化（2023年）、うめきた2期の先行開業（2024年）、御堂筋の側道歩道化（2025年）などが進み、大阪の都市空間はかなり変貌していることが予想されます。
- 本勉強会では、**万博を好機ととらえ、世界各国から万博を訪れる方々に向け、実際の大阪都心において万博のコンセプトである「未来社会の実験場」が実践されていることが、未来につながるレガシーになる**と考えております。
そのためには、大阪都心の都市空間（歩行者道路・水辺・広場・公園など）を活用したシティエキシビジョン（都市空間を活用した魅力発信の実践）や、来街者が大阪での時間を安全安心に楽しんでいただくための情報連携等、大阪の魅力を活かしたエリアと人との交流による**「おもてなし」**が重要であり、その実践による効果や経験値が10年後20年後の大阪の価値向上につながると考えております。
- 約3年半後に開催を迎える万博をいかにして活かし未来につなげるか、大阪のまちづくりを戦略的に進めていくための方策等について、さらなる検討を進め、年度内には提言としてまとめ、改めて発表いたします。

※添付資料：大阪都心のまちづくり活動勉強会 概要

※大阪都心のまちづくり活動勉強会メンバー ※順不同

【座長】大阪府立大学特別教授 橋爪紳也

【参加企業】大阪ガス株式会社、大阪市高速電気軌道株式会社、株式会社大林組、関西電力株式会社、近鉄不動産株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、阪急阪神不動産株式会社、三井不動産株式会社、一般社団法人大阪まちづくり協議会

【参加経済団体】公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会

【オブザーバー】大阪府、大阪市

【事務局】一般社団法人大阪まちづくり協議会

■本件に関するお問い合わせ

一般社団法人大阪まちづくり協議会 岡 那須 <http://www.osaka-placemaking.jp/>

MAIL : info@osaka-placemaking.jp

■ 目指す方向性：大阪の国際競争力の強化に向けた、官と民の魅力を活かした大阪ならではの「官民共創スタイル」の創出

大阪の持続可能かつ国際競争力の強化のためには、官と民の魅力を活かした大阪ならではの「官民共創」による総合力を活かした取組みが重要であり、約2年前から民間企業有志による意見交換を行い、本年4月、関西経済3団体や、オブザーバーとして行政にも参加頂き、「大阪都心のまちづくり活動勉強会」を立ち上げました。

大阪都心のまちづくりについて



地域課題を発見して
解決する

まちの空間資源を
活用する

人中心の居心地よい
環境づくり



目指すべき～大阪ならではの「官民共創スタイル」

江戸時代、町衆（商人）が「自分たちのまちのことは、自分たちでやろう、自分たちでやるしかしない」という精神のもと、浪華八百八橋と呼ばれた水の都を守ってきた“くいだおれ（杭倒れ）”のまち大阪。現代の町衆（まちづくりに関わる企業市民や地域の人々等）に受け継がれる“共助社会の精神”のもとに、大阪人らしいの経営視点での自発的発想によるまちづくりと、民間の活動を支える行政と、社会の経済活動を支える経済界の三位一体のまちづくり共創により、大阪の価値向上の実現をめざすものです

■ 現在の検討内容

● 2031年～以降の大阪都心のあり方について

2025年に向けた多くのインフラ整備計画が決定し、また次の2031年に予定しているなにわ筋線開業やベイエリアの開発など大きな変貌を迎える都心においてのまちづくりの将来像を検討

● 国際競争力を高めるための多様性ある大阪都心の魅力について

大阪都心の各エリアで育まれてきた歴史や文化を活かした豊かな暮らしと、その中で紡がれてきた地域の個性と独自性こそが大阪の財産であり、これらの魅力を大阪都心として連携することで、個々が持つ魅力を再認識し高め、より高い国際競争力の向上を検討

● 大阪都心の魅力向上による大阪全域への効果の波及について

大阪都心のまちづくりにより生み出される効果や先行例を、大阪府域の各地域へと波及することによるオール大阪の活性化を検討

2025年大阪・関西万博での都心における「未来社会の実験場」

世界各国から万博を訪れる方々に向け、実際の大阪都心においてその魅力を体感いただける「未来社会の実験場」が実践されることが、未来につながるレガシーになると考えています。

そのためには大阪都心の都市空間（歩行者道路・水辺・広場・公園など）を活用したシティエキシビジョン（都市空間を活用した魅力発信の実践）や、来街者が大阪での時間を安全安心に楽しんでもらうための情報連携等、大阪の魅力を活かしたエリアと人との交流による「おもてなし」が重要であり、その実践による効果や経験値が10年後20年後の大阪の価値向上につながると考えています。

※大阪都心の主要エリア

